

二部地区活性化だより

野上川の風

発行
二部地区活性化推進機構編集
総務部会

事務局

〒689-4233
西伯郡伯耆町二部1562-1
二部公民館内
TEL・FAX 0859-62-7159

明治大学の地域振興についての提言

歴史ガイドの会代表 藤田 常雄

平成二十七年九月、明治大学の地域貢献活動の一つとして、学生による地域振興策の提言を頂くことになりました。二部地区活性化推進機構では「二部地区の歴史文化を活用した地域の活性化」をテーマに地域振興策について提言を頂きました。

九月一日から四日まで学生三人（所属する学部は文学部、政治経済学部、法学部と色々でまた出身も千葉と東京二人で田舎とは縁の無い学生でした。）による地区内の調査、聞き取りが行われ、私達「歴史ガイドの会」の会員も調査に同行、説明するとともに、質問にも応答致しました。

地区内では足羽家をはじめ、出雲街道や、間地峠も実査し峠越えをしたほか、福岡神社や間賀の滝、農家食堂上代での食事、懇親会などを行い、学生達も三日間の調査での取り纏めは大変だったと思いますが精力的に取り組み、最終日の四日には中間報告として報告会が持たれ、若い青年達の外部からの目で提言を頂き、十一月には提案書を受け取りました。

提言では「二部地区への移住、定住」を最終目標に「二部を知ってもらうこと」を目標とした取組みが必要との提言であります。具体的には①外部に向けての情報発信と②二部地区の人々に二部の歴史の楽しさを知ってもらうって、二部に来てもらうきっかけ作りが必要で、その為には二部地区で活動されている各団体（二部地区活性化推進機構、歴史ガイドの会、だんだんプロジェクト、二部梁山泊等）の連携が欠かせず、具体策としてインターネット・メディアの活用と体験型ツアーの企画が提案されています。

二部歴史ガイドの会でも学生達の提案を参考にしながら今後の活動に取り組んでいきますので応援をお願いします。

二部地区運動会に優勝して

花 田 学(福吉)

野上の風にのり、強豪チームを押さえて見事優勝することができました。これは、ホームランではなく、ヒットと内野安打を積み重ねた結果の勝利だと思っています。

運動会の運営も、年齢構成の偏りのため、選手の確保に苦労したのは、どこも同じだったと思います。特に大変なのが総合リレー。四部以上での出場をずっとお願いしていた方から、「そろそろ定年を迎えるんですが…、代わって欲しい!」と訴えられるも結局頑張られ、小学校低学年の力走に声援を送り、「参加します!」と積極的な若い子もおられ、有難かったこと。他の競技も、その場にいた人の急遽出場で成立。最終競技までもつれた順位。優勝だと分った時の拍手と歓声。色々苦労もありましたが、案ずるより産むが易しで、何とかになりました。これも、選手集めに奔走してくれた石田真二さんを始め役員の方々、選手の皆様、声援を送って下さった方々、皆で勝ち取った優勝だったと思います。

来年度は、半日開催になりそうですが、種目を減らすのではなく、スピードアップで対応するということでした。家族で運動会弁当を食べるのも、慰労会で地域の人と触れ合うのも、子どもたちにとっては良き思い出となることでしょうし、大切なことだと思いますが…。

天気も含め終わるまで心配でした。来年も風が吹くかな。



宮崎美知子さんの体験談を聞いて

総務部会長 野口 哲 男

開発途上国で支援したいという強い思いで青年海外協力隊としてメキシコに赴任、現地で二か月間のスペイン語の研修を受けたが充分修得が出来ず、ミチコは何も分からなと言われているのが理解でき悔しい思いをする。

そういう中で水くみは天秤棒で実施(現地の人には頭に掛けて運搬)羊の毛を糸に紡ぐ道具も編物をする道具もない、何もないところから支援が始まった。自転車のリムと廃材で糸車を製作、糸を紡ぎ編物は自転車スポークを編棒に活用して現地の人に教えられたそうです。

青年海外協力隊で知り合った宮崎さんと結婚され伯耆町に移住し、牛の飼育を始めることを決められたが家も牛舎も土地も何もない状態から再び生活がスタート、大平原で家と牛舎を譲り受け牛の飼育が本格スタート、耕作放棄地で放牧、田の畦畔の草刈り後の草をもらい牛の餌とし、牛舎で出来た堆肥は、田畑に使って上手く循環している。仔牛は八か月間育てて市場に出荷し収入とする。牛飼いは素晴らしいとお話しされました。

何もないところからでも工夫と努力をすれば成果が得られることを実感しました。我々二部地区活性化推進機構のメンバーも大いに見習いたいものです。



ハロウィンイベントを企画して

二部梁山泊 西村 康平



今年も二部地区活性化推進機構との共同でハロウィンイベントを開催しましたところ、総勢70名を超える参加がありました。その中でも、嬉しかったのは、はじめて米子市河崎地区の方々に参加してもらえたことです。

今回のイベントでは、カボチャ提灯づくりの前に、魔女の帽子作りを実施し、よりハロウィンの雰囲気を楽しんでもらうように工夫したところです。帽子づくりでは、私の拙い説明を大人の皆さんに補ってもらいながら、なんとか子ども達全員が完成させることができました。

そして、メイスイイベントであるカボチャ提灯作りでは全部で40個、作ることが出来ました。例年以上に個性豊かな顔が揃ったと思います。

河崎地区の方々にも、二部地区でのイベントを楽しんでもらえたようですので、今後も二部地区の方たちの協力を得ながら実施していきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

ハロウィンイベントに参加して

二部小五年 西村 風紗

私の一番楽しかったハロウィンイベントは、カボチャ提灯作りです。そのわけは、知らない子と協力しながら提灯を作り、終わったら友達ができていたのでうれしかったです。

あと、一番感謝したいのは、このイベントの準備をしてくださったことです。朝からカレーを作ってくださったり、巨大かぼちゃを育ててくださって、ありがとうございます。

私が思うには、このイベントも含めて全部に出たけれど、今までのイベントもよかったけれども今回のイベントはさらによかったです。

私は、またこんなイベントがあれば進んでやりたいとおもいました。あと、この企画を立ててくださった方々ありがとうございます。



←カボチャ提灯作り



←魔女の帽子作り

「楽しい」たたらまつり

だんだんプロジェクト 高野善子

私が子どもの時のたたらまつりのイメージは正直、「楽しい」というものではありませんでした。久々に参加したのは、お母さんになってからです。お母さん達の展示があれば子ども達も喜んでくれるかな…、そんな思いで参加するようになりました。年々回数を重ねる度に地域の様々な方々の強い思いでまつりが続けられている事を改めて知りました。

自分達も参加するからには楽しむだけではなく盛り上げたいと思うようになり、今年は「リサイクルマーケット」を企画しました。出店者や来ていただいた方にも楽しんでいただけたのですが、一番嬉しかった事は、息子や娘に「楽しかったね。」と言ってもらえた事です。思わず心の中でガッツポーズしました。さらに、そんな声をたくさん聞く事が出来ました。それも色々な形で応援協力して下さった公民館、地域の方々、michikuusaの皆さん、二部地域にとどまらない母ネットワークとその家族、たくさんの方のお陰です。本当にありがとうございます。

これからまたたつりが、世代をこえてたくさんの方が活躍できるお祭り、子ども達の「楽しい」が溢れるお祭りになるように願っています。



「第33回 地域づくり団体全国研修交流会 石川大会」に参加して

前二部公民館長 石田 励次

昨年の八月二十九日～三十一日開催の地域づくり団体全国研修交流会に、二部地区活性化推進機構の二員として参加しました。当初は、北陸新幹線に初めて乗り、金沢も見れ、NHK朝ドラの「まれちゃん」にも逢える様な淡い夢も抱いての参加でした。しかし行き帰りとバスで、二十人乗り位の座席もリクライニング出来ない車で、少しがっかり。しかし、大山町や日南町、伯耆町役場や町内の顔みしりの方が沢山おられ、心強い旅立ちでした。

また、十二分科会と多数ある分科会の中で、二部地区の現状と自分自身の描く思いの中で、七尾市の第四分科会「あなたが選ぶ地域若者チャレンジ大賞」に魅かれ参加しました。

地域の活性化は「よそ者」「若者」「バカ者」が必要と言われて久しく、永く住んでいると当たり前と思うものが、「よそ者」「目線で見ると…?」又、「若者」「目線で見ると…?」「バカ者」は、馬力が有りその事を強力に押し進める人です。それゆえ、今回は若者の考え・意見を聞きたくてこの分科会を選びました。

金曜日早朝出発で、夕方七尾市着の強行軍でした。翌日は七尾駅からバスで一時間位乗り、上代学校の様な体育館に案内され、まさに二部地区に帰った様な地域でした。その地での発表は「若者」(大学生)ばかりでした。大学の無いこの地に於いて、「能登留学」と言うシステムが有ります。大学生が会社企業に入り計画立案・実行を行うもので、それを県町村がバックアップする制度で、経済情勢がかんばしく無い中で、学生の頑張りや苦労話が聞け、有意義な研修になりました。

しかし、我が地では無理ですが、「若者」の意見等は聞けべきと思いました。

私見では有りますが、昨今の少子・高齢化の社会情勢の中、高くても良い物、希少価値が高い物が売れるとうたつた雑誌を読む機会を得ました。

高価なイチゴ・卵・お茶等を知る時、これからは、薄利多売から「高価な良い物を少し」を二人なり二人で無理をせず作り、農業経営をして行く。この事は、安心・安全のニーズの中、「顔が見える商品」は消費者が今求める一番大切なものの様な気がします。また、これからはインターネットの時代でもあります。

二部地区に合った「三者」の目線で見つめ、活性化に取り組まねばならないと思います。

それを実践するのは、この文章を目にしたあなたかもしれません。ともに、頑張ろう！



あどがき

今年の「たたらまつり」では、だんだんプロジェクトや子育てサークルのメンバーでリサイクルマーケットを開催して頂くなど、若い世代も含めた取組ができ、少しずつではありますが、世代を超えた活動となったと思います。今後も同様な取組を進めて、二部の活性化の推進を図りたいものです。

